

22:1 ダビデはそこを去って、アドラムの洞穴に避難した。彼の兄弟たちや父の家の者はみな、これを聞いてダビデのところの下って来た。

22:2 そして、困窮している者、負債のある者、不満のある者たちもみな、彼のところに集まって来たので、ダビデは彼らの長となった。約四百人の者が彼とともにいるようになった。

22:3 ダビデはそこからモアブのミツバに行き、モアブの王に言った。「神が私にどのようなことをされるか分かるまで、どうか、父と母をあなたと一緒に住まわせてください。」

22:4 ダビデは両親をモアブの王の前に連れて来た。彼らは、ダビデが要害にいる間、王のもとに住んだ。

22:5 預言者ガドはダビデに言った。「この要害にとどまっていなくて、さあ、ユダの地に帰りなさい。」それで、ダビデはそこを出て、ハレテの森へやって来た。

22:6 サウルは、ダビデおよび彼とともにいる者たちが見つかったことを聞いた。サウルはギブアにある高台のタマリスクの木の下で、槍を手にして座っていた。彼の家来たちはみな、彼のそばに立っていた。

22:7 サウルは、そばに立っている家来たちに言った。「聞け、ベニヤミン人。エッサイの子が、おまえたち全員に畑やぶどう畑をくれたり、おまえたち全員を千人隊長、百人隊長の長にしたりするだろうか。」

22:8 それなのに、おまえたちはみな私に謀反を企てている。息子がエッサイの子と契約を結んでも、だれも私の耳に入れない。おまえ

たちのだれも、私のことを思って心を痛めることをせず、今日のように、息子が私のしもべを私に逆らわせて、待ち伏せさせても、私の耳に入れない。」

22:9 サウルの家来たちのそばに立っていたエドム人ドエグが答えて言った。「私は、エッサイの子が、ノブのアヒトブの子アヒメレクのところに来たのを見ました。」

22:10 アヒメレクは彼のために【主】に伺って、彼に食糧を与え、ペリシテ人ゴリヤテの剣も与えました。」

ダビデは不自由で不安な逃亡生活でしたが、「困窮している者、負債のある者、不満のある者たち」をも受け入れました。自分が大変なときでも人々を省みるのが信仰者です。後にダビデを大いに助けた三勇士はこのときダビデの下に来た者たちです。教会もこうありたいものですが、それは方針や活動というよりも1人1人の信仰と愛にかかっています。

またダビデは預言者の進言を聞き入れ、ユダにもどります。それは危険なことでしたが、結局はアヒメレクが捕えられたときには近くにいなかったわけで、自分を助けたことになりました。愛と主のみこころ（と思われる信仰者の助言）を行うとき、主は必ず最善をなしてください。

一方サウルは自分のことしか考えず、息子も家来も心が全く離れてしまいました。しかし彼は反省することもなく、「誰も私のことを思って心を痛めない。」と、自己憐憫に陥っています。孤立してしまったときは、自分をかわいそうと思う前に、主への従順から起きたことか、それとも自分に非があったのかを考えることも必要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

